



創立 100 周年記念事業

非常食備蓄による飢餓救済活動への参加～救缶鳥と鷺の“CAN”プロジェクト～ について

上智大学四谷キャンパス隣接の真田掘グラウンドは帰宅困難者支援場所、上智大学 4 号館 1 階の教室は一時的な被災者の収容場所となっており、また、上智短期大学のある秦野キャンパス（神奈川県秦野市）も広いグラウンドを有していることから、有事・震災時には学内者のみならず、多くの地域住民等が各グラウンドに避難することが予想されます。有事・震災時用の備蓄食糧については、最低でも 3 日分の用意をしておくこととなっておりますが、上智学院は、現在の非常用備蓄食糧に加え、「パンの缶詰」を備蓄しました。年齢、食文化を問わず、また、煮炊きのための機材を必要としない「パンの缶詰」を提供することは、地域貢献にも資するものであると考えます。

上智学院が導入した、株式会社パン・アキモト国際義援事業本部が製造している「パンの缶詰」は、3 年の賞味期限のうち、2 年間は手元で有事・震災時用の非常食として備蓄でき、備蓄から 2 年後に義援物資として飢餓地域・地震被害地域に輸送し、国際貢献ができるプロジェクト（「救缶鳥プロジェクト」）に参加することができるものです。

救缶鳥と鷺の“CAN”プロジェクト

パンの缶詰「救缶鳥」が義援先に届くまで。



ご存知のとおり、飢餓は依然として全人類の深刻な問題です。国連ミレニアム開発目標（MDGs）にも、「1990 年から 2015 年までに、飢餓に苦しむ人々の割合を半減させる」ことが掲げられています。また、イエズス会アドルフオ・ニコラス総長（元本学神学部教授）も、イエズス会日本再渡来 100 周年および第 30 代総長就任を記念して 2008 年 12 月に上智大学にて行われた講演において、「貧困・飢餓」について「その解決に貢献することこそ上智大学の使命である」とおっしゃられました。

上智大学創立 100 周年、上智短期大学創立 40 周年、上智社会福祉専門学校創立 50 周年記念事業は、教育・研究・国際貢献を通じて、世界人類の平和的発展に寄与することを目指しています。上智の教育精神“Men and Women for Others, with Others”の体现である、この「非常食備蓄による飢餓救済活動への参加～救缶鳥と鷺の“CAN”プロジェクト～」を始めとする創立 100 周年記念事業にご期待ください。